

# 森林に生きる

今こうしている瞬間も、地球上から森が消えている。世界各地で加速化する森林破壊。その原因を作っているのは、私たち人間自身ということに、どれだけの人が気付いているだろうか。2011年は「国際森林年」。この現実、正面から立ち向かう時にきている。

編集協力：宮園浩樹・JICA国際協力専門員  
参考：「世界森林資源評価2010（国連食糧農業機関・FAO）」

## 地球の悲鳴― 加速する森林減少

1日に、東京23区の約半分。一体これは、何を示す数字だろうか。なんと地球上では今、このスピードで、これだけの森林が失われている。

約1万年前、62億ヘクタールあった森林。しかし文明の発展とともに、その広大な自然に手が入られるようになっていった。人間によって次々と切り倒され、焼かれていく森林。かつて青々と緑に覆われていた空間は、はげ山となり、荒地となっていった。その結果、現在、世界の森林面積は陸地面積の約3割、40億ヘクタール以下にまで減少。本来、自然に生かされているはずの私たちが、自らの営みのために、自然のあるべき姿を奪ってしまった。

そして今、こうしている瞬間にも、ものすごいスピードで森林が失われている。「森林減少が社会問題として国際的に広く認識され始めたのは1980年代ごろ。それ以降、大規模な植林が行われるなどさまざまな対策が講じられてきました。森林減少が最も著しかった80〜90年代に比べると、そのスピードは緩やかになってきてはいます。それでもブラジルやインドネシアなどの熱帯雨林の減少は進む一方です」と宮園浩樹・JICA国際協力専門員は話す。

### 国際森林年とは・・・

森林の持続可能な経営・保全の重要性を広く知ってもらおうと、国連が定めた国際年。世界各地での自発的な取り組みを推進しており、日本国内でも森林をテーマとしたシンポジウムやイベントを年間を通じて開催されている。国際森林年における各国の取り組み状況は、9月の国連総会で報告予定。

火災や過剰伐採などにより年間2%ずつ消失しているインドネシアの森  
(撮影：谷本美加)



### 日中のトキ保護活動を記念した切手が発行

今年2011年は、中国で絶滅したと思われていたトキが陝西省で再発見されてから30年の節目の年。また、1985年から続く日中のトキ保護協力を引き継ぎ、昨年からJICAの「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」が開始されたことも記念して、陝西省より切手が発行された。

切手の絵柄は中国の国花である牡丹。その脇に、JICAのプロジェクトによる野生トキのモニタリング活動などの写真が添えられている。

再発見された当時わずか7羽だったトキは、日中が協力して繁殖や保護活動に取り組んだ結果、20年で約1,600羽にまで増加した。さらに個体数が増え、分布地域が拡大した現在、トキと人の共生が新たな課題。田畑などでエサを探すトキは人里近くの森に

生息するため、農民たちは農業の使用や産業開発が制限され、これが収入減少を招いているのだ。そこでこのプロジェクトでは、農業を使わない有機農法を農民たちに指導したり、新たな放鳥計画を受けて地域の子もたちにトキの重要性を教える環境教育を実施し、トキ生息地の保全と人々の生活向上の両立を目指している。



Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation(森林減少・劣化の抑制による温室効果ガス排出量の削減)の略称。plusには、森林減少・劣化の抑制に加え、森林保全、森林の持続的経営、二酸化炭素蓄積量の維持・増大などを含む。

は森林が残っている地方部に暮らす人が多い。彼らは生きていくために、森林資源に依存した生活を送っている。持続的な森林保全を達成するためには、一番近いところにいる彼らに裨益する支援、つまり、彼らの生計向上を図っていくことが重要なのです」と宮園専門員は話す。国際社会においても、92年にブラジルのリオデジャネイロで開催された「国連環境開発会議(地球サミット)」を契機に、「持続可能な森林管理」がキーワードになっている。

模な森林をいかに持続的に活用して生計を立てていくかが大切でした。それは多くの途上国についても同じ。日本の経験が生かせる分野です」と強調する。JICAは日本の知見を生かし、住民参加型の森林保全の取り組みを強化するとともに、日本国内でも里山のノウハウを伝える研修を実施するなどさまざまな協力を進めている。また最近では、途上国での森林保全、植林、森林の再生を進めることで温室効果ガス排出削減を推進する「REDD plus」にも積極的に取り組む。

今も、そしてこれからも、人間は森の恵みを受けて生きていくだろう。その中で、森林と共に生きていくために私たち自身がすべきことを、考えていかなければならない。

#### CHINA 中国

植林で森は増加傾向に。その土地に適した樹種の育成技術などをJICAも支援(撮影:今岡昌子)



#### ETHIOPIA エチオピア

砂漠化が深刻なアフリカ。生活に不可欠な薪の伐採量も増えている(撮影:渋谷敦志)

### 森林の役割

- 生活物資としての資源
- 二酸化炭素の貯蔵庫(地球温暖化の防止)
- 水資源のかん養
- 生活場所、レクリエーションの場の提供

森林減少には、いくつかの原因がある。まず一つには、木材としての利用。周囲を見てみよう。鉛筆や紙、住宅、家具など、私たちの生活空間は、木を原料とするものであふれていることが分かる。また、道路や施設などを建設するための木材の伐採、熱帯地域を中心に行われている焼き畑農業、さらには、電力の普及が遅れている途上国の貧困層は、燃料の大半を薪炭材に依存した生活を送っている。つまり、その大部分が私たち人間に起因しているのだ。合わせて、干ばつや森林火災など、自然現象によって一気に大量の森林が消失してしまうケースも少なくない。

しかし、木材の利用「悪」ではない。森林は再生可能な資源だ。重要なのは、持続的に管理・利用することなのである。それでは、森林がなくなると一体何が起ころののだろうか。単に、私たちの生活に必要な資源がなくなるだけではないことを知ってほしい。森林は、二酸化炭素を吸収して酸素を排出したり、水分を吸収して土壌のかん養力を高めたりと、自然界のバランスを維持するために重要な役割を果たしている。しかし本来あるべき機能が失われることで、地球温暖化や土砂災害などが発生。貴重な生き物のすみかも失われるなど、自然環境にも深刻な影響を及ぼしている。

### 減る森、増える森。

ここ5年間で世界の森林は減り続けている。特に、森林大国ブラジルやインドネシアなどが顕著だ。他方、中国での大規模な植林により、アジアはプラスに転じている。だが依然、東南アジアや南アジアでの消失率は高い。

#### 純消失面積・純増加面積

- +50万以上
- +25万から+50万
- +5万から+25万
- 5万から+5万
- 5万から-25万
- 25万から-50万
- 50万以上 (ha/年)



焼き畑で燃える森。し過ぎないこと。これが森と生きる条件

#### 各国の森林面積の純変化(2005~2010年)

出典:FAO「世界森林資源評価2010」

#### BRAZIL ブラジル



年々増加する木材消費。アマゾンの森近くにもたくさんの製材所がある森(撮影:永武ひかる)

#### 日本の木材自給率

出典:林野庁「木材需給表(用材部門)」

